

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 3 月 4 日 (2021.3.4)

【公開番号】特開 2019-107340 (P2019-107340A)
 【公開日】令和 1 年 7 月 4 日 (2019.7.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-026
 【出願番号】特願 2017-243527 (P2017-243527)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 25 日 (2021.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の図柄を変動表示可能な複数のリールと、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記複数のリールを用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段と、を備える遊技機であって、

前記複数のリールは、水平方向に並んで設けられ、

前記複数の役には、当籤役として決定されると第 1 又は第 2 の図柄の組合せを表示可能な特定役と、当籤役として決定されると所定の図柄の組合せを表示可能な所定役と、が含まれ、

前記複数のリールのそれぞれには、前記特定役に応じた前記第 1 の図柄の組合せを構成する第 1 図柄と、前記特定役に応じた前記第 2 の図柄の組合せを構成する第 2 図柄と、前記所定役に応じた前記所定の図柄の組合せを構成する所定図柄と、が描かれるとともに、

同じリールにおける前記所定図柄と前記第 1 図柄との前記リールの回転方向の間隔は、一端側のリールにおいて所定間隔であるとともに、当該一端側のリールから順に一定間隔ずつ広くなるように描かれ、また、同じリールにおける前記所定図柄と前記第 2 図柄との前記リールの回転方向の間隔は、一端側のリールにおいて前記所定間隔とは異なる特定間隔であるとともに、当該一端側のリールから順に一定間隔ずつ広くなるように描かれ、

前記図柄の変動が停止したときに前記第 1 又は前記第 2 の図柄の組合せが表示されると、特定遊技状態を開始可能な特定状態制御手段と、

前記特定役が当籤役として決定されると、前記第 1 又は前記第 2 の図柄の組合せが表示されるまで当該特定役を当籤役として持ち越し可能な持越手段と、

を更に備え、

前記遊技制御手段は、前記持越手段によって前記特定役が当籤役として持ち越されている遊技において前記所定役を当籤役として決定可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

また、このような遊技機として、例えば、特許文献 1 には、ボーナス役に応じた図柄の組合せが表示されると、遊技者にとって有利なボーナス遊技状態を開始する遊技機が開示されている。ところで、表示された図柄の組合せによってボーナス遊技状態を開始する遊技機では、遊技者は、ボーナス役に応じた図柄の組合せを狙って停止操作を行う必要があり、所謂目押し操作の苦手な遊技者は、ボーナス遊技状態を開始するまでに時間がかかってしまうという問題があった。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 5 】

そこで、近年では、ボーナス役に応じた図柄の組合せを容易に表示可能な準備目を設ける遊技機も知られている。例えば、上述の遊技機では、「BAR - BAR - ドン 1」という図柄の組合せが、「ドン 1 - ドン 1 - ドン 1」というボーナス役に応じた図柄の組合せの準備目となっている。具体的には、遊技者は、準備目が表示された次遊技に、左のリールに図柄位置「3」の「ドン 1」図柄を狙って停止操作を行い、その後、中のリール及び右のリールに対して一定のリズム（間隔）で停止操作を行うだけで、「ドン 1 - ドン 1 - ドン 1」というボーナス役に応じた図柄の組合せを停止表示可能となっている。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 6 】

【 特 許 文 献 1 】 特 開 2 0 1 6 - 5 2 3 5 8 号 公 報

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

このような遊技機によれば、事前に準備目を用意しておき、次遊技で第 1 停止のみを狙い、第 2 停止及び第 3 停止を一定のリズムで操作するだけで、任意の図柄の組合せ（例えば、ボーナス役に応じた図柄の組合せ）を表示させることができる（所謂、ボーナスの即揃え）ため、目押しするリールが一つのみになり、目押しが苦手な遊技者であっても有益である。しかしながら、従来の遊技機では、ボーナス役の当籤を察知した後の遊技において準備目を用意し、また、その次遊技でボーナスの即揃えを行うことになるため、準備が面倒であり即揃えを行う遊技者は多くなかった。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 8 】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、図柄の組合せの即揃えを容易に実現可能な遊技機を提供することを目的とする。

【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明に係る遊技機は、複数の図柄を変動表示可能な複数のリールと、複数の役の中から決定された当籤役に応じて前記複数のリールを用いた遊技の進行を制御する遊技制御手段と、を備える遊技機であって、前記複数のリールは、水平方向に並んで設けられ、前記複数の役には、当籤役として決定されると第 1 又は第 2 の図柄の組合せを表示可能な特定役と、当籤役として決定されると所定の図柄の組合せを表示可能な所定役と、が含まれ、前記複数のリールのそれぞれには、前記特定役に応じた前記第 1 の図柄の組合せを構成する第 1 図柄と、前記特定役に応じた前記第 2 の図柄の組合せを構成する第 2 図柄と、前記所定役に応じた前記所定の図柄の組合せを構成する所定図柄と、が描かれるとともに、同じリールにおける前記所定図柄と前記第 1 図柄との前記リールの回転方向の間隔は、一端側のリールにおいて所定間隔であるとともに、当該一端側のリールから順に一定間隔ずつ広くなるように描かれ、また、同じリールにおける前記所定図柄と前記第 2 図柄との前記リールの回転方向の間隔は、一端側のリールにおいて前記所定間隔とは異なる特定間隔であるとともに、当該一端側のリールから順に一定間隔ずつ広くなるように描かれ、前記図柄の変動が停止したときに前記第 1 又は前記第 2 の図柄の組合せが表示されると、特定遊技状態を開始可能な特定状態制御手段と、前記特定役が当籤役として決定されると、前記第 1 又は前記第 2 の図柄の組合せが表示されるまで当該特定役を当籤役として持ち越し可能な持越手段と、を更に備え、前記遊技制御手段は、前記持越手段によって前記特定役が当籤役として持ち越されている遊技において前記所定役を当籤役として決定可能であることを特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 10】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

本発明によれば、図柄の組合せの即揃えを容易に実現することができる。